

事務事業マネジメントシート（平成29年度実施分）

事業区分 重点

事業名	公共交通バリアフリー化促進		
所管課	交通計画課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成14年度		平成12年度の「交通バリアフリー法」の施行を受け、平成14年3月に「福岡市交通バリアフリー基本方針」の策定を行い、この中で特定旅客施設(1日あたりの利用者数5,000人以上)のうち、優先的に整備が必要な鉄道駅(主要交通結節点)やバス車両等の公共交通のバリアフリー化整備について方針を定めたもの。
根拠法令	高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律		
行政計画	福岡市バリアフリー基本計画		

基本計画				
施策コード	主	1-1-1		施策成果指標
	再			
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている			
施策	ユニバーサルデザインの理念によるまちづくり			
事業群	ユニバーサル都市・福岡の推進			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	高齢者や障がいのある人をはじめ、すべての公共交通利用者(鉄道、バス)
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	安全且つ円滑な公共交通の利用ができるよう、ノンステップバスの導入や1日当たり平均的な乗降客数3,000人以上の駅のエレベーター設置等に補助を行い、バリアフリー化の促進を図る

実施内容(手段)	平成29年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	交通事業者が行う公共交通施設のバリアフリー化整備に対して補助金を交付 ・ ノンステップバス導入促進【補助台数 60台】

事業費(千円)		
平成29年度決算額(見込額)		
	歳出合計	35,935
歳入	特定財源	0
	一般財源	35,935
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H28 H30
	歳出合計	38,872 41,006
歳入	特定財源	0 0
	一般財源	38,872 41,006

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)																																																																													
	○鉄道駅のバリアフリー化を促進する。 ○ノンステップバスの導入促進を図る。	○安全且つ利用しやすい公共交通施設を実現	○公共交通利用者の移動円滑化が図れる。 ○高齢者等の外出機会の増加に寄与 ○公共交通利用へ転換する。	○ユニバーサルデザインの理念に基づくまちづくりを達成 ○市民の暮らしの質が向上																																																																													
	活動の指標	成果の指標(KPI)																																																																															
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H28年度</th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">鉄道駅のバリアフリー化(駅/年度毎)</td> <td>目標</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">H年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">116万人</td> <td style="text-align: center;">H34年度</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">120万人</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">ノンステップバスの導入促進(台/年度毎)</td> <td>目標</td> <td style="text-align: center;">87</td> <td style="text-align: center;">75</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">63</td> <td style="text-align: center;">H年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td style="text-align: center;">87</td> <td style="text-align: center;">64</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td style="text-align: center;">100.0%</td> <td style="text-align: center;">85.3%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		H28年度	H29年度	H30年度	最終年度	鉄道駅のバリアフリー化(駅/年度毎)	目標	0	0	0	H年度	実績	0	0	116万人	H34年度	達成率	-	-	120万人	ノンステップバスの導入促進(台/年度毎)	目標	87	75	63	H年度	実績	87	64		達成率	100.0%	85.3%		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H28年度</th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">1日あたりの鉄道・バス利用人員</td> <td>目標</td> <td style="text-align: center;">114万人</td> <td style="text-align: center;">115万人</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">116万人</td> <td style="text-align: center;">H34年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td style="text-align: center;">123.6万人</td> <td></td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">120万人</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td style="text-align: center;">108.4%</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">H年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		H28年度	H29年度	H30年度	最終年度	1日あたりの鉄道・バス利用人員	目標	114万人	115万人	116万人	H34年度	実績	123.6万人		120万人	達成率	108.4%			目標				H年度		実績						達成率			
指標の内容	年度			実績		目標																																																																											
		H28年度	H29年度	H30年度	最終年度																																																																												
鉄道駅のバリアフリー化(駅/年度毎)	目標	0	0	0	H年度																																																																												
	実績	0	0		116万人	H34年度																																																																											
	達成率	-	-			120万人																																																																											
ノンステップバスの導入促進(台/年度毎)	目標	87	75	63	H年度																																																																												
	実績	87	64																																																																														
	達成率	100.0%	85.3%																																																																														
指標の内容	年度	実績		目標																																																																													
		H28年度	H29年度	H30年度	最終年度																																																																												
1日あたりの鉄道・バス利用人員	目標	114万人	115万人	116万人	H34年度																																																																												
	実績	123.6万人			120万人																																																																												
	達成率	108.4%																																																																															
	目標				H年度																																																																												
	実績																																																																																
	達成率																																																																																

事務事業マネジメントシート（平成29年度実施分）

事業名	七隈線沿線のまちづくり推進(橋本・戸切地区まちづくり推進調査)		
所管課	地域計画課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成25年度		地下鉄七隈線の整備を契機として、良好な市街地形成や新たな拠点の形成を図るため。
根拠法令	土地区画整理法・都市計画法		
行政計画	なし		

基本計画			
施策コード	主	4-4-1	施策成果指標
	再		なし
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている		
施策	まちと自然が調和した福岡型のコンパクトなまちづくり		
事業群	計画的な市街地整備の推進		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 地下鉄七隈線地域(橋本駅周辺)
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 駅周辺の地域の特性を活かした、地域住民等が主体のまちづくりにより、市民生活の核となる拠点形成の実現を目指す。

実施内容(手段)	平成29年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○地域主体のまちづくり支援等 ●(仮称)橋本駅前土地区画整理準備組合への支援 ・事業化に向けた関係機関との協議調整 ・準備組合委員会開催への支援及び出席 ●(仮称)橋本駅南土地区画整理準備組合への支援 ・事業化に向けた関係機関との協議調整 ・準備組合委員会開催への支援及び出席 [予算額] 229千円(事務費)
-----------------	---

事業費(千円)		
平成29年度決算額(見込額)		
	歳出合計	229
歳入	特定財源	0
	一般財源	229
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H28 H30
	歳出合計	4,164 195
歳入	特定財源	1,590 0
	一般財源	2,574 195

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか) 地域住民が行うまちづくり活動(土地区画整理事業等)について、以下のような誘導支援を行う。 ・早期事業化に向けた関係機関との協議調整 ・準備組合への支援 ・地権者の意向を反映した土地利用案の作成の支援 ・事業計画案の作成の支援	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか) まちづくり活動に対する地域住民の同意が得られ、事業実施の実現が図られる。	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか) ・橋本駅を中心に商業・サービス機能及び交流機能が集積し、魅力と賑わいを創出する地域の新しい拠点となるまちが形成される。 ・交通結節機能の強化、駅周辺の整備により、地下鉄利用者の利便性が向上する。	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか) ・商業、業務機能の集積や定住人口の増加による地下鉄七隈線の乗車人員増が見込める。 ・定住人口の増加による税収(固定資産税、都市計画税等)が見込める。 ・鉄道駅を中心としたコンパクトで良好な市街地が形成される。
	▶	▶	▶	
	▶	▶	▶	

活動の指標	指標の内容	実績		目標		
		年度	H28年度	H29年度	H30年度	最終年度
	七隈線沿線の土地区画整理事業実施件数	目標	1	1	1	H32年度
		実績	0	0	1	
		達成率	0%	0%		
		目標				H年度
	実績					
	達成率					

成果の指標(KPI)	指標の内容	実績		目標		
		年度	H28年度	H29年度	H30年度	最終年度
	地下鉄七隈線の乗車人員(1日当たり)	目標	76,831	77,745	78,670	H32年度
		実績	82,386	87,015	80,553	
		達成率	107.2%	111.9%		
		目標				H年度
	実績					
	達成率					

事務事業マネジメントシート（平成29年度実施分）

事業名	青果市場、箕子小学校、冷泉小学校跡地活用の検討	
所管課	住宅都市局跡地活用推進部計画課 (青果市場・箕子小) 住宅都市局地域まちづくり推進部まちづくり推進室 (冷泉小)	背景
開始年度		
根拠法令		
行政計画		
事業を始めた理由(きっかけ)は何か		
敷地規模や立地環境など都市計画上の観点から、総合的な検討が必要となる跡地について、早期跡地活用に向けた検討を推進する必要があったため		

基本計画			
施策コード	主 再	4-4-1	施策成果指標
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている		
施策	まちと自然が調和した福岡型のコンパクトな都市づくり		
事業群	計画的な市街地整備の推進		
なし			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 青果市場跡地、箕子小学校跡地、冷泉小学校跡地
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 土地を所管する部局と連携し、立地環境や敷地規模を踏まえ、地域や福岡市の魅力向上につながるような跡地活用を図る

実施内容(手段)	平成29年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○青果市場跡地 地域の代表や学識経験者などで構成する「青果市場跡地まちづくり構想委員会」から意見を聞きながら、跡地活用の指針となる「まちづくり構想」(H29.9)を策定。まちづくり構想を踏まえ、公募の考え方等を示す、「青果市場跡地活用方針」を策定し、事業者公募を実施した(H30.1) ○箕子小学校跡地 地域の代表や学識経験者などで構成する「箕子小学校跡地活用会議」を設置し、意見を聞くとともに、民間アイデア募集を実施(H29.6)。提出された民間アイデアや地域の意向等を踏まえ、跡地活用方針の検討を進めた。 ○冷泉小学校跡地 跡地全体の活用検討着手に向けて、地元自治協議会からの要望事項等について、関係部署と連携し、協議及び調整を実施した。
-----------------	---

事業費(千円)		
平成29年度決算額(見込額)		
	歳出合計	29,755
歳入	特定財源	0
	一般財源	29,755
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H28 H30
	歳出合計	17,009 21,064
歳入	特定財源	0 0
	一般財源	17,009 21,064

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)
	公共利用を考慮しつつ、地域や事業者のニーズ、財源確保やまちづくりの観点などを踏まえた総合的な検討を行う。事業者決定後は地域や関係機関等との調整を行う。	総合的な検討により跡地活用の基本的な考え方(跡地活用方針など)をとりまとめ、跡地活用の取り組み(事業者公募など)が定まる。	立地環境や敷地規模を生かし地域の活性化に資する機能の導入や、魅力的な都市空間が創出され、良好な市街地環境が形成される。	地域や福岡市の魅力が向上され、生活の質の向上や都市の成長につながる。
	活動の指標	指標の内容	実績	目標
	跡地活用の基本的な考え方(跡地活用方針など)のとりまとめ	年度 H28年度 H29年度 H30年度 最終年度	年度 H28年度 H29年度 H30年度 最終年度	
	目標 検討 策定 (未定)	実績 検討 策定 (青果市場跡地) 策定 (箕子小跡地) 策定 (未定)	目標 0.0 0.0 8.8 (青果市場跡地) (未定)	
	達成率	達成率	達成率	
	目標 策定 (未定)	実績 策定 (青果市場跡地) 策定 (箕子小跡地) 実施	実績 0.0 0.0 10.3	
	達成率	達成率	達成率	
	公募の実施、地域・関係機関等との調整	年度 H28年度 H29年度 H30年度 最終年度	年度 H28年度 H29年度 H30年度 最終年度	
	目標 策定 (未定)	実績 策定 (青果市場跡地) 策定 (箕子小跡地) 実施	目標 H年度	
	達成率	達成率	達成率	

事務事業マネジメントシート（平成29年度実施分）

事業名	九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくり		
所管課	九大移転調整課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成3年		九州大学の移転に伴う箱崎キャンパス周辺の地域活力低下を最小限とするともに、九大統合移転事業を円滑に進めるため、計画的かつ速やかな土地利用転換を図り、良好な市街地の形成と新たな都市機能の導入を推進する。
根拠法令	なし		
行政計画	地域拠点、機能を充実・転換する地域(第9次福岡市基本計画)		

基本計画				事業区分	重点
施策コード	主	4-4-1		なし	
	再				
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている				
施策	まちと自然が調和した福岡型のコンパクトなまちづくり				
事業群	計画的な市街地整備の推進				

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	九州大学箱崎キャンパス跡地および貝塚駅周辺
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	周辺地域と調和・連携した、良好な市街地の形成および新たな都市機能の導入を図る。

実施内容(手段)	平成29年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	<ul style="list-style-type: none"> 九州大学と連携した土地処分に向けた検討 ①地元代表や学識者等からなる「跡地利用協議会」(計3回)や作業部会におけるまちづくりルール等に関するランドデザイン策定に向けた検討 ②先進的なまちづくり「FUKUOKA Smart EAST」の検討 ③埋蔵文化財調査や土壌汚染調査・対策に関する調整 都市基盤の整備に向けた検討 ①直接施行制度を活用した都市計画道路の測量・設計等 ②都市基盤整備関連の検討 北エリア:土地区画整理事業に関する調査・測量等 南エリア:UR都市機構による開発行為の支援・調整 ③環境影響評価の実施(現地調査等) 公共施設の配置について関係者との協議、検討(公園、箱崎中学校等)

事業費(千円)			
平成29年度決算額(見込額)			
歳出合計		267,028	
歳入	特定財源	19,020	
	一般財源	248,008	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	H28	H30
歳出合計		73,578	268,669
歳入	特定財源	0	162,350
	一般財源	73,578	106,319

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)																																																																													
	<ul style="list-style-type: none"> 跡地利用計画を踏まえ、地域住民や学識経験者等の関係者と必要な事項を協議する。 事業者のニーズを把握するため、土地利用の意向を示している事業者との意見交換を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民や事業者等のニーズにあった、まちのづくりルールや運用の仕組み等を示した「ランドデザイン」が取りまとめられる。 事業者のニーズにあった選定手法が決定され、公募では多様な事業者が進出しやすくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ランドデザインに基づき、段階的な土地利用の転換、都市基盤の整備・改善が行われる。 持続性を持ったまちづくりの体制の確立される。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな都市機能も導入され、良好な市街地の形成が実現する。 周辺地域と一体となったまちの運営により、周辺地域を含めた、市民のまちづくりへの理解や満足度が向上する。 																																																																													
	活動の指標	成果の指標(KPI)																																																																															
	指標の内容	指標の内容	指標の内容	指標の内容																																																																													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H28年度</th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>各種調査において進出意向を示した延事業者数</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>H年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>90</td> <td>90</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>90.0%</td> <td>90.0%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>H年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績		目標		H28年度	H29年度	H30年度	最終年度	各種調査において進出意向を示した延事業者数	100	100	100	H年度	実績	90	90			達成率	90.0%	90.0%			目標				H年度	実績					達成率					<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H28年度</th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土地利用の転換が図られた面積</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>H36年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>H年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績		目標		H28年度	H29年度	H30年度	最終年度	土地利用の転換が図られた面積	0	0	0	H36年度	実績	0	0			達成率	-	-		50	目標				H年度	実績					達成率					
年度	実績		目標																																																																														
	H28年度	H29年度	H30年度	最終年度																																																																													
各種調査において進出意向を示した延事業者数	100	100	100	H年度																																																																													
実績	90	90																																																																															
達成率	90.0%	90.0%																																																																															
目標				H年度																																																																													
実績																																																																																	
達成率																																																																																	
年度	実績		目標																																																																														
	H28年度	H29年度	H30年度	最終年度																																																																													
土地利用の転換が図られた面積	0	0	0	H36年度																																																																													
実績	0	0																																																																															
達成率	-	-		50																																																																													
目標				H年度																																																																													
実績																																																																																	
達成率																																																																																	

事務事業マネジメントシート（平成29年度実施分）

事業区分 重点

事業名	動物園の整備・運営		
所管課	動物園	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成18年度		平成14年度、新たに動物園を造ろうとした「福岡市自然動物公園構想」の中止を受け、老朽化した現在の動物園を存続していくために再生することになった。
根拠法令	なし		
行政計画	なし		

基本計画				
施策コード	主	4-4-2		施策成果指標
	再	5-1-2		
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている			
施策	まちと自然が調和した福岡型のコンパクトな都市づくり			
事業群	公園整備等の推進			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	<ul style="list-style-type: none"> ○来園者 ○地域住民 ○飼育動物 ○管理運営者
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	<ul style="list-style-type: none"> ○年間入園者数100万人、魅力ある動物展示の工夫(息づかい、行動の特性等)、利便性の向上(ユニバーサルデザインの導入等) ○周辺道路の渋滞対策及び公共交通利用促進 ○飼育動物の福祉(エンリッチメント)向上 ○入園者増加による収益向上

実施内容(手段)	平成29年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	① エントランス複合施設新築工事の継続(H30年秋完成予定)。
	② エントランス複合施設ある動物情報館及びレストラン・売店の運営事業者を公募し選定。
	③ 閑散期(夏・冬)の集客企画と情報発信を実施。
	④ 民間企業と連携した動植物園ラッピングバス(2台)の運行継続及び新たなラッピングバス(2台)の製作。
⑤ 交通事業者とタイアップした公共交通利用促進キャンペーンの実施。	

事業費(千円)		
平成29年度決算額(見込額)		
歳出合計		767,862
歳入	特定財源	556,667
	一般財源	211,195
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H28 H30
歳出合計	680,726	1,385,468
歳入	特定財源	450,557 1,038,081
	一般財源	230,169 347,387

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果, どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果, 対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果, 市としてどうなるのか)			
	<ul style="list-style-type: none"> ○「福岡市動植物園再生基本計画」における的確かつ計画的な設計および工事発注の進行管理。 ○現場スタッフのオリジナルアイデア投入 ○戦略的な情報発信 ○公共交通利用促進 	<ul style="list-style-type: none"> ○整備スケジュールに基づく計画的な施設完成と福岡独自の魅力的な施設整備 ○メディアや市民の関心度向上 ○周辺道路の渋滞緩和や環境負荷低減, 満足度向上 ○入園者増加による収益向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○魅力的な施設の整備や関心・満足度向上 ○ストレスのない、生き生きとした動物展示 ○地域住民との良好な関係 ○計画的な管理運営 	<ul style="list-style-type: none"> ○人と地球にやさしい都市の構築 ○安定した入園者増加による →収益の増加 →観光政策推進に貢献 			
	活動の指標	指標の内容	実績		目標		
			年度	H28年度	H29年度	H30年度	最終年度
		工事の進捗率(%)	目標	38.9	43.3	44.6	H37年度
全体工事費ベース(約90億円)		実績	43.3	44.6	90.0		
		達成率	111.3%	103.0%			
	目標				H年度		
	実績						
	達成率						
成果の指標(KPI)	指標の内容	実績		目標			
		年度	H28年度	H29年度	H30年度	最終年度	
	入園者数(動植物園)	目標	900,000	900,000	900,000	H37年度	
		実績	814,590	804,435		1,000,000	
		達成率	90.5%	89.4%			
目標					H年度		
	実績						
	達成率						

事務事業マネジメントシート（平成29年度実施分）

事業区分		重点
事業名	総合交通体系の推進	
所管課	交通計画課	背景 事業を始めた理由(きっかけ)は何か 本格的な高齢社会の到来や環境問題の深刻化、不採算バス路線の廃止などの課題に対応するため、交通体系の主軸である公共交通ネットワークを強化し、マイカーに過度に頼らない社会を実現する必要がある。
開始年度	平成24年度	
根拠法令	なし	
行政計画	なし	
施策コード	主 4-5-1 再	
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている	
施策	公共交通を主軸とした総合交通体系の構築	
事業群	公共交通ネットワークの充実	
施策成果指標	1日あたりの鉄道・バス利用人員 (H22:108万4千人 → H34年度目標値:120万人) 公共交通が便利と感じる市民の割合 (H24:77.4% → H34年度目標値:現状維持)	

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 公共交通機関(鉄道・バス)
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 異なる公共交通機関(地下鉄/西鉄電車/西鉄バス/JR等)が相互に連携し、利用者にとって使いやすい公共交通ネットワークとなり、多くの市民・来訪者に利用されている状態

実施内容(手段)	平成29年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか 「福岡市総合交通戦略」に短期施策として位置付けた施策のうち、公共交通の利便性向上と利用促進の施策について検討・実施した。 ・転入者や小学校低学年に対する公共交通情報提供のモビリティマネジメント(MM) ・大型商業施設駐車場を活用したパークアンドライド(P&R)の実施等 ・交通事業者連携による外国人旅行者を対象とした公共交通共通乗車券(FTCP)の実施等
-----------------	--

事業費(千円)		
平成29年度決算額(見込額)		
歳出合計		7,712
歳入	特定財源	0
	一般財源	7,712
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H28 H30
歳出合計	9,441	8,455
歳入	特定財源	0 0
	一般財源	9,441 8,455

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)								
	利用者にとって使いやすい公共交通が主軸となった総合交通体系の構築に向けたロードマップを、交通事業者や道路管理者等の関係者との共働により策定する	①のロードマップに基づいて、関係者(交通事業者、市、道路管理者等)の連携により、PDCAサイクルで取り組みが進められる。	②のプランを実行し、色々な公共交通機関(地下鉄/西鉄電車/西鉄バス/JR等)が相互に連携した、利用者にとって使いやすい公共交通ネットワークが形成される。	マイカーに過度に依存しなくてもよい、公共交通を中心とした交通体系が構築された社会となっている。								
	活動の指標	指標の内容	実績	目標	成果の指標(KPI)	指標の内容	実績	目標				
		年度	H28年度	H29年度	H30年度	最終年度		年度	H28年度	H29年度	H30年度	最終年度
	パークアンドライド契約施設数	目標	5	6	7	H34年度		目標	114万人	115万人	116万人	H34年度
		実績	5	6		11		実績	123.6万人			120万人
		達成率	100.0%	100.0%			達成率	108.4%				
		目標				H年度		目標	現状維持(80%程度)	現状維持(80%程度)	現状維持(80%程度)	H34年度
		実績						実績	80.3	80.4	現状維持(80%程度)	現状維持(80%程度)
		達成率						達成率	100.0%	100.0%	(80%程度)	(80%程度)

事務事業マネジメントシート（平成29年度実施分）

事業名	東部地域における鉄道計画調査	
所管課	交通計画課	背景 事業を始めた理由(きっかけ)は何か ・都市交通審議会答申[昭和46年] 都心部から箱崎方面に至る路線(現地下鉄2号線)を新設し、西鉄宮地岳線(現貝塚線)との直通運転について検討が必要
開始年度	平成17年度	
根拠法令	なし	
行政計画	なし	

基本計画			事業区分	重点
施策コード	主	4-5-1	○1日あたりの鉄道・バス利用人員(H22:108万4千人 → H34年度目標値:120万人) ○公共交通が便利と感じる市民の割合(H24:77.4% → H34年度目標値:現状維持)	
	再			
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている			
施策	公共交通を主軸とした総合交通体系の構築			
事業群	公共交通ネットワークの充実			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか	地下鉄2号線、西鉄貝塚線利用者及び沿線居住者等
	対象をどのような状態にしたいのか	貝塚駅における乗継ぎを解消し、福岡市東部地域と都心部間の交通利便性の向上が図られる
事業目的		

実施内容(手段)	平成29年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか	直通運転化に向けては、事業の収支採算性や費用対効果(B/C)の改善が課題となっており、国庫補助採択のためには、初期投資費用の圧縮とともに、利便性の確保を図ることが必要である。
	このためH29年度は、初期投資費用(C)の圧縮を図るために、既存の施設をできる限り活用しつつ、地下鉄箱崎線から空港線(姪浜方面)への直通列車が現状どおり維持されるよう運行スキームを再検討し、交通対策特別委員会にて報告した。	

事業費(千円)		
平成29年度決算額(見込額)		
歳出合計	4,752	
歳入	0	
特定財源	0	
一般財源	4,752	
前年度決算額・翌年度予算額		
年度	H28	H30
歳出合計	2,700	5,000
歳入	0	
特定財源	0	
一般財源	2,700	5,000

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果, どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果, 対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果, 市としてどうなるのか)	
	実現可能性が見込まれる運営スキームの構築にむけて、鉄道事業者と協議・調整を行う。	・地下鉄2号線と西鉄貝塚線が直通運転化され、利用者の乗継ぎが解消される。	福岡市東部地域と都心部間の交通利便性が向上し、鉄道ネットワークの形成により、東部広域拠点(香椎・千早)、アイランドシティ、都心部の連携が強化される。	・沿線の新しいまちづくりや商業業務機能集積により福岡型のコンパクトな都市が形成される。 ・交通混雑の緩和や環境負荷の低減など環境に優しい都市が構築される。	
活動の指標	指標の内容	実績		目標	
		年度	H28年度	H29年度	H30年度
	目標				H年度
	実績				
	達成率				
	目標				H年度
	実績				
	達成率				
	目標				H年度
	実績				
	達成率				

成果の指標(KPI)	指標の内容	実績		目標	
		年度	H28年度	H29年度	H30年度
	目標	現状維持(80%程度)	現状維持(80%程度)		H年度
	実績	80.3	80.4		
	達成率	100.0%	100.0%		
	目標				H年度
	実績				
	達成率				

事務事業マネジメントシート（平成29年度実施分）

事業名	都心拠点間の交通ネットワーク強化の検討	
所管課	都心交通課	背景
開始年度	平成23年度	
根拠法令	なし	
行政計画	福岡市都市交通基本計画, 福岡市総合交通戦略	
	事業を始めた理由(きっかけ)は何か 市が主要事業の一つとしてMICE誘致の推進に取り組む中で、新たな展示場の検討が行われるなどウォーターフロントエリアの重要性が高まっており、都心部(天神・渡辺通, 博多駅, ウォーターフロント)の拠点間の回遊性を高め、来訪者にもわかりやすい公共交通によるアクセス強化に取り組む必要があった。	

基本計画				事業区分	重点	
施策コード	主	4-5-1		施策成果指標	1日あたりの鉄道・バス乗車人員 現状値(2010年)108万4千人 目標値(2022年)120万人	
	再	5-4-1	8-1-2			
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている					公共交通の便利さへの評価 (鉄道やバスなどの公共交通が便利と感じる市民の割合) 現状値(2012年)77.4% 目標値(2022年)現状維持(80%程度を維持)
施策	公共交通を主軸とした総合交通体系の構築					
事業群	公共交通ネットワークの充実					

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 都心3拠点(天神・博多駅・ウォーターフロント地区)を回遊する市民や来街者
	対象をどのような状態にしたいのか 国際競争力を備えた九州・アジアをつなぐ交流拠点として、本市の成長を牽引する天神・渡辺通地区, 博多駅周辺地区, アジアとの玄関口であるウォーターフロント地区間の回遊性を高め、市民や来街者にもわかりやすい公共交通によるアクセス強化を図るもの。
事業目的	

実施内容(手段)	平成29年度, 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○都心循環BRTの形成に向けた連節バスによる試行運行の実施 ・市民や来街者の声等を踏まえ, H29.6からこれまでの約100分~110分間隔, 1日12便の運行から約20分~30分間隔, 1日62便の運行に移行。 ○専用走行空間のあり方については, 都心循環BRTを含めたバスの定時性・速達性の確保による公共交通の利便性を向上させるため, バスレーンの拡充・強化等の検討。

事業費(千円)		
平成29年度決算額(見込額)		
歳出合計		19,794
歳入	特定財源	6
	一般財源	19,788
前年度決算額・翌年度予算額		
年度	H28	H30
歳出合計	11,377	14,168
歳入	特定財源	0
	一般財源	11,377

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果, どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果, 対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果, 市としてどうなるのか)
	○交通アクセス強化における段階的な整備スケジュール(プロセス)の確定 ○関係者と協議・調整 ○適宜情報発信(市民などへのわかりやすい情報提供)	○交通アクセス強化の段階的なプロセスが示され ○本事業の目的, プロセスを理解し, 合意形成が図られている。	○都心拠点間の公共交通によるアクセスが市民や来訪者にとってわかりやすく利用しやすいものとなる。 ○都心部の案内誘導が充実し, 市民や来訪者にとってわかりやすいものとなる。 ○本事業の目的, プロセスを市民が理解している。	○都心拠点間の公共交通によるアクセスが市民や来街者に定着する。 ○都心部の回遊性が向上する。 ○都心部における公共交通の利用者が増え, 自動車利用者が減ることにより, 「道路交通混雑の緩和」や「都心拠点間の交通ネットワークの強化」が図られる。

活動の指標	指標の内容	実績			目標	
		年度	H28年度	H29年度	H30年度	最終年度
	目標				H 年度	
	実績					
	達成率					
	目標				H 年度	
	実績					
	達成率					

成果の指標(KPI)	指標の内容	実績			目標	
		年度	H28年度	H29年度	H30年度	最終年度
	目標	30.0	30.0		H34年度	
	実績	12.1	42.0	30.0		
	達成率	40.3%	140.0%		30.0	
	目標	現状維持(80%程度)	現状維持(80%程度)		H34年度	
	実績	80.3	80.4	現状維持(80%程度)		
	達成率			現状維持(80%程度)	現状維持(80%程度)	

事務事業マネジメントシート（平成29年度実施分）

事業名	都心部における交通マネジメント施策の推進		
所管課	都心交通課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	不明		都心部、特に天神地区の交通混雑悪化を契機として、交通需要の調整や交通容量の回復を図るため、「福岡市交通マネジメント施策推進協議会」において打ち出された交通施策の方向性に基づき、交通マネジメント施策を展開する必要があった。
根拠法令	なし		
行政計画	福岡市都市交通基本計画、福岡市総合交通戦略		

基本計画			
施策コード	主	4-5-2	
	再	8-1-2	
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている		
施策	公共交通を主軸とした総合交通体系の構築		
事業群	交通マネジメントの推進(公共交通機関や自転車利用の促進等)		
施策成果指標	1日あたりの鉄道・バス乗車人員 現状値(2010年)108万4千人 目標値(2022年)120万人		
	公共交通の便利さへの評価 (鉄道やバスなどの公共交通が便利と感じる市民の割合) 現状値(2012年)77.4% 目標値(2022年)現状維持(80%程度を維持)		

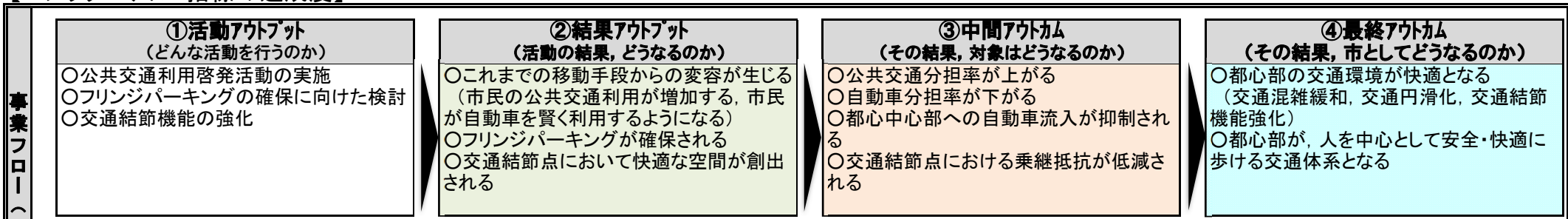
【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 都市機能の集積や自動車交通の集中により交通混雑が慢性化している福岡都心部
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 都心部における交通混雑の緩和や交通結節機能の強化を図り、円滑な都市活動を支える快適な交通環境を創造するもの。

実施内容(手段)	平成29年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ・天神地区の交通課題解決に向けた、天神交通戦略に基づくWeLove天神協議会(WLT)との共働による短中期施策の検討及び実施 ・博多駅筑紫口駅前広場再整備に向けた関係者協議
-----------------	--

事業費(千円)		
平成29年度決算額(見込額)		
歳出合計		342
歳入	特定財源	0
	一般財源	342
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H28
	H28	H30
歳出合計	311	3,125
歳入	特定財源	0
	一般財源	311
		3,125

【ロジックモデル・指標の達成度】



活動の指標	指標の内容	実績		目標	
		年度	H28年度	H29年度	H30年度
	目標				H 年度
	実績				
	達成率				
	目標				H 年度
	実績				
	達成率				

成果の指標(KPI)	指標の内容	実績		目標	
		年度	H28年度	H29年度	H30年度
1日あたりの鉄道・バス乗車人員(万人)	目標		114.0	115.0	H34年度
	実績		123.6	未確定	116.0
	達成率		108.4%		120.0
	目標		80.0	80.5	H34年度
	実績		88.9	未確定	81.0
	達成率		111.1%		83.0

事務事業マネジメントシート（平成29年度実施分）

事業区分 重点

事業名	生活交通支援		
所管課	交通計画課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成18年度		平成14年度の道路運送法の改正に伴い、バス路線の廃止が許可制から事前届出制となったことから、本市内を運行する路線バスにおいても、不採算路線の休廃止の届け出がなされ、公共交通が空白地となる地域において、生活交通(代替交通)の確保が必要となるため、財政負担による支援を行うもの。
根拠法令	公共交通空白地等及び移動制約者に係る生活交通の確保に関する条例		
行政計画	福岡市都市交通基本計画		

基本計画			
施策コード	主	4-5-4	
	再		
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている		
施策	公共交通を主軸とした総合交通体系の構築		
事業群	生活交通の確保		
施策成果指標	1日あたりの鉄道・バス利用人員 (H22:108万4千人 → H34年度目標値:120万人) 公共交通が便利と感じる市民の割合 (H24:77.4% → H34年度目標値:現状維持)		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	公共交通の利用について不便と感じる市民
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	生活交通は、通勤、通学、通院、買い物その他の日常生活に欠かすことのできない、市民の諸活動の基盤であり、その移動手段について、制限なく支障を来さないよう必要最低限の生活交通の確保を行う。

実施内容(手段)	平成29年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	・休廃止対策 路線バスの休廃止に伴い、公共交通空白地となる地域において、代替交通の運行経費に補助を行っている。脇山支線については、地域の実情に応じ運行内容の見直しを行い、早良区大字西地区に予約型の乗合タクシーを導入した。 【5路線(H29n):今宿姪浜線、板屋脇山線、志賀島島内線、脇山支線、金武橋本線】
	・不便地対策 公共交通の利用が不便な地域や、それに準ずる地域において、地域主体の取組みに対する検討経費や、交通事業者が実施する試行運行の経費に補助を行っている。
	・生活交通確保支援 休廃止対策や不便地対策の対象以外の地域において、生活交通確保に向けた地域主体の取組みに対して、専門的なアドバイスなどの活動支援を行っている。

事業費(千円)		
平成29年度決算額(見込額)		
歳出合計		52,832
歳入	特定財源	1,892
	一般財源	50,940
前年度決算額・翌年度予算額		
年度	H28	H30
歳出合計	51,649	57,216
歳入	特定財源	1,942
	一般財源	49,707

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか) ○公共交通が空白地となる地域における代替交通の確保・支援 ○地域主体による生活交通確保の取組みに対する支援	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか) ○公共交通が空白地となりうる地域における必要最低限の生活交通の確保ができる。 ○地域実情に応じた公共交通サービスの確保ができる。	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか) ○広域的な移動手段が確保できる。 ○高齢者等の外出機会の増加に寄与 ○公共交通利用者の維持	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか) ○公共交通サービスの維持 ○地域コミュニティの醸成																																																																		
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>年度</th> <th>H28年度</th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">出前講座の開催回数(回/年度毎)</td> <td>目標</td> <td>1</td> <td>1</td> <td rowspan="3">1</td> <td rowspan="3">H年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>0.0%</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">バス連絡協議会の開催回数(回/年度毎) 【5路線(1回/路線)】</td> <td>目標</td> <td>5</td> <td>5</td> <td rowspan="3">5</td> <td rowspan="3">H年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>7</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>140.0%</td> <td>180.0%</td> </tr> </table>	指標の内容	実績		目標		年度	H28年度	H29年度	H30年度	最終年度	出前講座の開催回数(回/年度毎)	目標	1	1	1	H年度	実績	0	1	達成率	0.0%	100.0%	バス連絡協議会の開催回数(回/年度毎) 【5路線(1回/路線)】	目標	5	5	5	H年度	実績	7	9	達成率	140.0%	180.0%	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>年度</th> <th>H28年度</th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">休廃止補助路線のバス利用者数(千人/年度毎)</td> <td>目標</td> <td>169</td> <td>165</td> <td rowspan="3">169</td> <td rowspan="3">H年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>152</td> <td>153</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>89.9%</td> <td>92.7%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">地域における取組みに対する支援(地区/年度毎)</td> <td>目標</td> <td>2</td> <td>2</td> <td rowspan="3">2</td> <td rowspan="3">H年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> </tr> </table>	指標の内容	実績		目標		年度	H28年度	H29年度	H30年度	最終年度	休廃止補助路線のバス利用者数(千人/年度毎)	目標	169	165	169	H年度	実績	152	153	達成率	89.9%	92.7%	地域における取組みに対する支援(地区/年度毎)	目標	2	2	2	H年度	実績	2	2	達成率	100.0%	100.0%
	指標の内容		実績		目標																																																																	
		年度	H28年度	H29年度	H30年度	最終年度																																																																
出前講座の開催回数(回/年度毎)	目標	1	1	1	H年度																																																																	
	実績	0	1																																																																			
	達成率	0.0%	100.0%																																																																			
バス連絡協議会の開催回数(回/年度毎) 【5路線(1回/路線)】	目標	5	5	5	H年度																																																																	
	実績	7	9																																																																			
	達成率	140.0%	180.0%																																																																			
指標の内容	実績		目標																																																																			
	年度	H28年度	H29年度	H30年度	最終年度																																																																	
休廃止補助路線のバス利用者数(千人/年度毎)	目標	169	165	169	H年度																																																																	
	実績	152	153																																																																			
	達成率	89.9%	92.7%																																																																			
地域における取組みに対する支援(地区/年度毎)	目標	2	2	2	H年度																																																																	
	実績	2	2																																																																			
	達成率	100.0%	100.0%																																																																			

事務事業マネジメントシート（平成29年度実施分）

事業名	みどり活用推進事業	
所管課	みどり推進課	背景 事業を始めた理由(きっかけ)は何か これからの公園や街路樹などの整備・管理運営については、限られた財源の中で、社会状況の変化や市民の多様なニーズに的確に対応する必要がある。そこで、これまでの「創る・守る」視点だけでなく、「活かす・育てる」視点を加えみどり行政を進める。
開始年度	平成25年度	
根拠法令	なし	
行政計画	福岡市 新・緑の基本計画	

基本計画			事業区分	重点
施策コード	主	4-6-1		身近な緑への満足度(身近な地域において緑が豊かになっていると感じる市民の割合) (H24:31.6%, H28:40%, H32:55%)
	再	4-4-2		
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている			
施策	ストックの活用による地区の価値や魅力の向上			
事業群	公共空間の利活用の推進			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか	みどり資産
	対象をどのような状態にしたいのか	みどり経営基本方針の理念が浸透し、職員のみどり資産活用に対するマインドの向上や体制の整備、市民・地域・企業によるみどり整備・運営への参画の充実、みどり資産整備・運営経費の収支改善等が実施されている状態。
事業目的		

実施内容(手段)	平成29年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	①公園駐車場の有料化 今津運動公園の駐車場有料化 西南杜の湖畔公園の駐車場工事および有料化
	③高宮南緑地事業者公募開始
	④活気ある公園づくり事業の実施
	⑤コミュニティパーク事業実施

事業費(千円)		
平成29年度決算額(見込額)		
歳出合計	29,863	
歳入	特定財源	21,642
	一般財源	8,221
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H28 H30
歳出合計	56,170	14,800
歳入	特定財源	36,000 6,000
	一般財源	20,170 8,800

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)																																																																											
	<ul style="list-style-type: none"> みどり経営基本方針を基に市民との共働や収支の改善、資産の有効活用を進め、みどり資産の価値の向上を図る。当面、下記の事業を進める。 市民との共働:コミュニティパーク事業の推進、市民、企業との共働による花のまちづくりの推進 収支の改善:駐車場の有料化、使用料や占用料の見直し、街路樹再整備方針の策定 資産の有効活用:特別緑地保全地区における保全、活用の推進、官民連携事業(PPP)の推進 	<ul style="list-style-type: none"> みどりの維持管理へ市民参加が促進される 公園ににぎわいが生まれる 管理コストが削減される 資産有効活用による歳入増又は歳出減 	<ul style="list-style-type: none"> みどり資産の価値が高まる。 ①地域住民の生活に根ざした身近な公園→地域自ら活かし育て、憩いやコミュニティ活動、健康づくり、学びの場となっている ②広域から多くの利用者が集う公園→質の高いサービスとともに活かされ、都市の賑わいや活力の創出につながっている ③都市の骨格と個性ある都市景観を形成する緑→まちを彩り、風格ある街並みを形成する緑として育て、愛されている ④地域住民に親しまれる身近な森の緑→地域の貴重な緑として自ら守り育て、共存し、愛されている 	<ul style="list-style-type: none"> 「生活の質の向上」と「都市の成長」の好循環を創出 																																																																											
	活動の指標	指標の内容	実績	目標	成果の指標(KPI)																																																																										
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H28年度</th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>10</td> <td>10</td> <td></td> <td>H32年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>9</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>90.0%</td> <td>110.0%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> <td>H32年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	年度	実績		目標		H28年度	H29年度	H30年度	最終年度	目標	10	10		H32年度	実績	9	11	12	16	達成率	90.0%	110.0%			目標	2	2		H32年度	実績	2	2	2	4	達成率	100.0%	100.0%			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H28年度</th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>40.0</td> <td>43.8</td> <td></td> <td>H32年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>31.3</td> <td>33.8</td> <td>47.6</td> <td>55.0</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>78.3%</td> <td>77.2%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>H年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	年度	実績		目標		H28年度	H29年度	H30年度	最終年度	目標	40.0	43.8		H32年度	実績	31.3	33.8	47.6	55.0	達成率	78.3%	77.2%			目標				H年度	実績					達成率			
年度	実績		目標																																																																												
	H28年度	H29年度	H30年度	最終年度																																																																											
目標	10	10		H32年度																																																																											
実績	9	11	12	16																																																																											
達成率	90.0%	110.0%																																																																													
目標	2	2		H32年度																																																																											
実績	2	2	2	4																																																																											
達成率	100.0%	100.0%																																																																													
年度	実績		目標																																																																												
	H28年度	H29年度	H30年度	最終年度																																																																											
目標	40.0	43.8		H32年度																																																																											
実績	31.3	33.8	47.6	55.0																																																																											
達成率	78.3%	77.2%																																																																													
目標				H年度																																																																											
実績																																																																															
達成率																																																																															

事務事業マネジメントシート（平成29年度実施分）

		事業区分	重点	基本計画			
事業名	セントラルパーク構想推進事業						
所管課	みどり政策課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か	施策コード	主	5-2-1	
開始年度	平成25年度			再	8-1-1		
根拠法令	なし			分野別目標	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている		
行政計画	福岡市 新・緑の基本計画			施策	緑と歴史・文化のにぎわい拠点づくり		
				事業群	市民の憩いと集客の拠点づくり(大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用等)		
				施策成果指標	過去3年間に福岡城跡(舞鶴公園)に行ったことがある市民の割合 (H28年度:55%, H34年度目標値:60%)		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか	実施内容(手段)	平成29年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか	事業費(千円)												
	<ul style="list-style-type: none"> ①県民・市民 ②国内外からの観光客 		<ul style="list-style-type: none"> ・セントラルパーク基本計画の策定に向けた検討を行った。 ・福岡城さくらまつりや指定管理者の自主事業の充実、多様な民間イベントの受入れ等により、季節を通じた賑わいを創出した。 ・イベントガイドの作成やホームページリニューアル等により、情報発信を強化した。 ・イベント実施を促進するために、福岡市公園条例改正(使用料見直し)やイベント利用の手引きの見直しを行った。 ・文化財や観光部局等もメンバーに加えて大濠・舞鶴公園連絡会議を開催した。 ・指定管理者の自主事業の充実等により、市民・企業との共働を促進した。 ・サクラやアジサイ等の見所づくりや、移動式ベンチの設置や一部トイレの洋式化等による回遊性・快適性の向上に取り組んだ。 ・防災公園街区整備事業(高裁跡地)の事業着手に向けてURと協議を進めた。 ・城内住宅の移転(2区画)を進めた。 	平成29年度決算額(見込額) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>歳出合計</td><td style="text-align: right;">322,106</td></tr> <tr><td>歳入</td><td></td></tr> <tr><td> 特定財源</td><td style="text-align: right;">168,897</td></tr> <tr><td> 一般財源</td><td style="text-align: right;">153,209</td></tr> </table>	歳出合計	322,106	歳入		特定財源	168,897	一般財源	153,209				
歳出合計	322,106															
歳入																
特定財源	168,897															
一般財源	153,209															
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか	前年度決算額・翌年度予算額														
	<ul style="list-style-type: none"> ①大濠公園・舞鶴公園が一体となって、日常的な憩いの場として利用されている状態 ②両公園が本市の貴重な観光資源として磨き上げられ、魅力的な観光地となり、福岡の一泊の目的地となっている状態 		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H28</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>歳出合計</td> <td style="text-align: right;">259,774</td> <td style="text-align: right;">967,529</td> </tr> <tr> <td>歳入</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 特定財源</td> <td style="text-align: right;">226,247</td> <td style="text-align: right;">795,982</td> </tr> <tr> <td> 一般財源</td> <td style="text-align: right;">33,527</td> <td style="text-align: right;">171,547</td> </tr> </tbody> </table>	年度	H28	H30	歳出合計	259,774	967,529	歳入			特定財源	226,247	795,982	一般財源
年度	H28	H30														
歳出合計	259,774	967,529														
歳入																
特定財源	226,247	795,982														
一般財源	33,527	171,547														

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・県市共同でセントラルパーク基本計画を策定する。 ・既存イベントの充実や多様なイベントを受入れるとともに、イベントしやすい環境づくりを行う。 ・県市で組織を設置し、管理運営の連携を図る。 ・市民・企業等の参加の機会を増やす。 ・史跡の発掘調査や復元整備、一体的な公園整備を進める。 ・非史跡施設の移転を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・両公園の今後の整備方針が決定する。 ・大濠公園や周辺も含めたエリアで、官民一体となり、福岡城さくらまつり等が実施されている。 ・年間を通して多様なイベントが実施され、賑わいが創出される。 ・両公園で一体的な管理運営が行われている。 ・市民・企業等との共働した取組みが増加する。 ・両公園の見所が増え、回遊性も向上する。 ・非史跡施設が城内からなくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・憩いの場としての魅力や利便性が向上し、公園利用者や公園運営に参加する県民・市民が増加する。 ・九州・西日本の魅力的な観光スポットとして、国内のみならず、海外からの観光客も増加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力的な空間となることで、周辺居住者が増加するとともに、観光客の増加で経済活動が活発化する。 ・海外からの観光客増加で、アジアの交流拠点都市として国際競争力が向上する。 		
	活動の指標	指標の内容	実績	目標	成果の指標(KPI)	
			年度	年度	年度	年度
			H28年度	H29年度	H30年度	最終年度
セントラルパーク基本計画の策定	目標	100%	100%	100%	H30年度	
	実績	60%	70%		100%	
	達成率	60.0%	70.0%			
	目標	60日	65日	70日	H32年度	
実績	77日	154日	80日			
達成率	128.3%	236.9%				
イベントの年間開催日数	目標	55.0%	55.8%	56.7%	H34年度	
	実績	60.5%	59.4%		60.0%	
	達成率	110.0%	106.5%			
	目標				H年度	
実績						
達成率						

事務事業マネジメントシート（平成29年度実施分）

事業名	快適で高質な都心回遊空間の創出事業	
所管課	都心創生課	背景 事業を始めた理由(きっかけ)は何か 都心部の更なる機能強化と魅力づくりを図るため、核となる天神・渡辺通、博多駅、ウオーターフロントの3地区の都市機能を高めるとともに、各地区が相互に連携し、都心部全体の活力が向上するよう、回遊性強化に取り組むもの。 ※第9次福岡市基本計画(H24.12策定)「施策5-3 情報アクセスや回遊性など、来街者にやさしいおもてなし環境づくり」
開始年度	平成25年度	
根拠法令	なし	
行政計画	なし	

基本計画			
施策コード	主	5-3-2	
	再	8-1-1	
分野別目標	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている		
施策	情報アクセスや回遊性など、来街者にやさしいおもてなし環境づくり		
事業群	交通利便性や都心回遊性の向上		
施策成果指標	なし		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか	都心部において働く人、住む人、訪れる人など、あらゆる人
	対象をどのような状態にしたいのか	・歩いて楽しく、魅力ある回遊空間の形成により、働くひと、住む人、訪れる人の心に残る美しいまちとなり、都心部の歩行者が増加する。
事業目的		

実施内容(手段)	平成29年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか	<ul style="list-style-type: none"> ○都心回遊に関する庁内横断的な検討組織を設置し、事業間の調整・情報共有などを通じて、事業全体の最適化を図っている。 (事業の優先順位の整理や、関係課と連携した事業計画の立案) ○天神ビッグバンの奥座敷(西中洲)～情緒ある路地空間の創出～西中洲地区の魅力づくりに向けた景観誘導 ○都心部における街路樹などの再整備 博多～天神を繋ぐ通りの魅力づくり(はかた駅前通りの再整備 等)

事業費(千円)			
平成29年度決算額(見込額)			
歳出合計		118	
歳入	特定財源	0	
	一般財源	118	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	H28	H30
歳出合計		3,888	1,000
歳入	特定財源	0	0
	一般財源	3,888	1,000

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果, どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果, 対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果, 市としてどうなるのか)
	道路、河川、公園などの回遊空間のコンセプトやデザイン、回遊スポットとなるにぎわい空間の創出について、関係局連携のもと検討・共有・整備を推進する。	都心部回遊空間の形成とあわせて、エリアマネジメント組織等による回遊空間等での活動が活発になることで都心部に賑わいと活力を与える。	都心部の回遊空間を歩行する市民や来街者等が増加する。	都心部を回遊する市民や来街者の増加により、飲食、買い物、宿泊など様々な経済波及効果をもたらされ、市全体の活力が向上する。

活動の指標	指標の内容	実績		目標		
		年度	H28年度	H29年度	H30年度	最終年度
	エリアマネジメント組織等と当課とのまちづくり検討に係る協議回数	目標	50	50	50	H年度
		実績	64	83		
		達成率	128.0%	166.0%		
	エリアマネジメント組織等による公開空地等でのイベント開催件数	目標	15	20	20	H年度
	実績	18	28			
	達成率	120.0%	140.0%			

成果の指標(KPI)	指標の内容	実績			目標	
		年度	H28年度	H29年度	H30年度	最終年度
	都心部の1日あたりの歩行者交通量(天神地区、博多駅地区の調査地点のうち12地点の合計(平日7時～20時))(単位:万人)	目標	11.0	-	-	H34年度
		実績	13.2	-		
		達成率	120.0%	-		11.3
		目標				H年度
	実績					
	達成率					

事務事業マネジメントシート（平成29年度実施分）

事業名	都心部のまちづくりの推進	
所管課	都心創生部	背景 福岡市においても将来的には人口や税収の減少が見込まれる中、これまで以上に都市の機能強化と魅力づくりを図ることが必要。そのためには都市の成長を牽引する都心部において、計画的な機能更新によりあらゆる人の活動を支えるための都市機能に磨きをかける必要がある。
	都心創生課	
開始年度	平成20年度	
根拠法令	なし	
行政計画	なし	

基本計画			
施策コード	主	8-1-1	
	再	7-4-1	
分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている		
施策	都市の活力を牽引する都心部の機能強化		
事業群	都心部の機能強化と魅力づくり		

事業区分	重点
都心部の従業者数 (H34年度目標値: 40万人)	

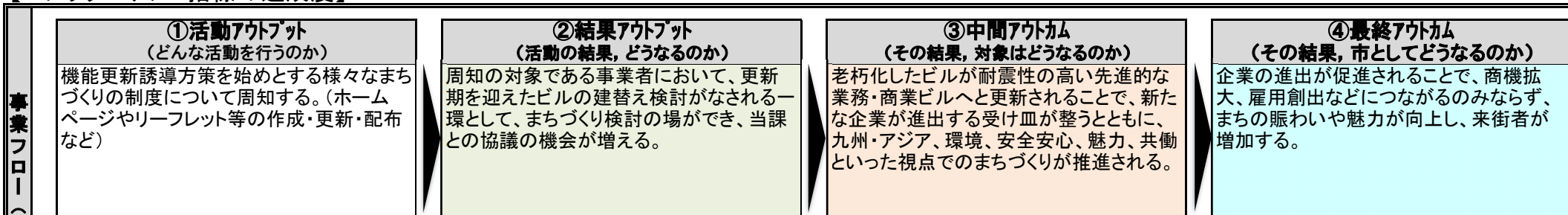
【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	都心部において働く人、住む人、訪れる人など、あらゆる人
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	都心部のまちづくりを通じて、人と経済活動を呼び込み、様々な投資やサービスの提供がなされ、そこに様々な雇用が生まれることで、生活の質が更に高まっていく。

実施内容(手段)	平成29年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	○平成29年7月に旧大名小学校跡地および9月には天神明治通り地区において、国家戦略特区による航空法高さ制限の特例承認(天神明治通り地区においてはさらなる緩和)を獲得。
	○市独自の容積率緩和制度(都心部機能更新誘導方針)を活用し、平成29年10月に「(仮称)近鉄博多ビル」および平成30年3月に「博多駅前二丁目複合ビル(仮称)」が工事に着手。
	○天神地区では、ひとを中心とした「歩いて出かけたくなるまち」の実現に向け、「天神ビッグバン」を推進。
	→民間ビルの建替え時機を捉えた官民連携による天神明治通り地区地下通路整備への支援。
	→旧大名小学校跡地において、平成29年9月に広場などを確保する地区計画を決定した上で、10月から事業者公募を実施し、平成30年3月に優先交渉権者を決定。

事業費(千円)			
平成29年度決算額(見込額)			
歳出合計		68,937	
歳入	特定財源	21,170	
	一般財源	47,767	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	H28	H30
歳出合計		15,802	22,649
	特定財源	2,331	5
歳入	一般財源	13,471	22,644

【ロジックモデル・指標の達成度】



活動の指標	指標の内容	実績		目標		
		年度	H28年度	H29年度	H30年度	最終年度
制度PRのためのパンフレット配布や出前講座開催の件数	目標		8	8	8	H年度
	実績		15	21		H34年度
	達成率		187.5%	262.5%		
エリアマネジメント組織等と当課とのまちづくり検討に係る協議回数	目標		50	50	50	H年度
	実績		64	83		H34年度
	達成率		128.0%	166.0%		

成果の指標(KPI)	指標の内容	実績		目標		
		年度	H28年度	H29年度	H30年度	最終年度
都心部の従業者数(単位:万人)	目標		39.0	39.1	39.1	H33年度
	実績		未確定	-		H34年度
	達成率		-	-		40.0
都心部の1日あたりの歩行者交通量(天神地区、博多駅地区の調査地点のうち12地点の合計(平日7時~20時))(単位:万人)	目標		11.0	-	-	H34年度
	実績		13.2	-		11.3
	達成率		120.0%	-		

事務事業マネジメントシート（平成29年度実施分）

事業名	ウォーターフロント再整備の推進	
所管課	住宅都市局 都心創生部	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
	ウォーターフロント再整備推進課	
開始年度	平成25年度	背景 ・クルーズ船の寄航回数の急増やコンベンション施設の多い稼働率に対する都市機能の供給力不足が顕在化した。 ・第9次福岡市基本計画に、WF地区の都市機能を高めることなどが位置づけられた。
根拠法令	なし	
行政計画	第9次福岡市基本計画	

基本計画				施策成果指標
施策コード	主	8-1-1		
	再	5-4-1	8-4-2	
分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている			
施策	都市の活力を牽引する都心部の機能強化			
事業群	都心部の機能強化と魅力づくり			
				都心部の従業者数 (H34年度目標値: 40万人)
				都心部の1日あたりの歩行者交通量 (H34年度目標値: 113千人)

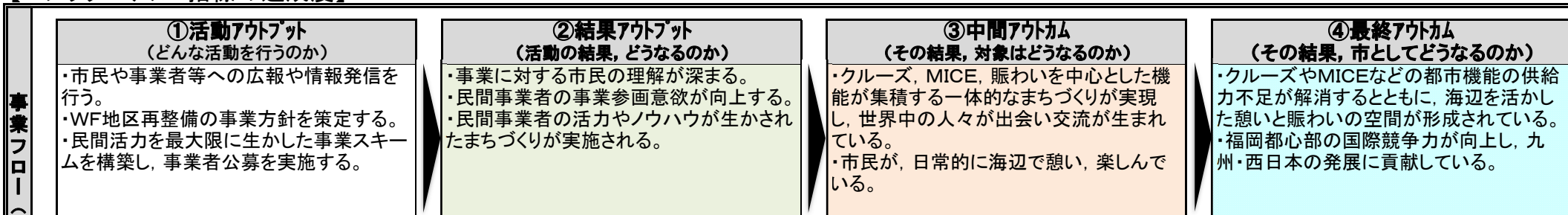
【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	<ul style="list-style-type: none"> 市民 国内外からの来街者 (クルーズ船利用客、MICE施設利用者等)
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	<ul style="list-style-type: none"> 都心の貴重な水辺空間で、日常的に市民が憩い、楽しんでいる状態。 クルーズ、MICE、賑わいを中心とした機能が集積する一体的なまちづくりが実現し、世界中の人々が出会い交流が生まれている状態。

実施内容(手段)	平成29年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年3月に策定した「ウォーターフロント地区再整備構想」に基づき、「クルーズ」「MICE」「賑わい」が融合した一体的なまちづくりを目指し、機能強化の方向性や事業手法、交通対策等の検討を行った。 平成30年2月に、先行整備する第2期展示場及び立体駐車場の事業者公募を行った。 中央ふ頭西側岸壁改良など、クルーズ受入環境の整備を行った。 ウォーターフロントシンポジウムの開催や出前講座の実施など、広報・情報発信に取り組んだ。 平成29年9月に、国家戦略特区による「航空法の高さ制限の特例承認」を獲得した。

事業費(千円)			
平成29年度決算額(見込額)			
歳出合計	74,032		
歳入	特定財源		
	一般財源	74,032	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	H28	H30
歳出合計	9,034		90,195
	特定財源		
歳入	一般財源	9,034	90,195

【ロジックモデル・指標の達成度】



活動の指標	指標の内容	実績		目標		
		年度	H28年度	H29年度	H30年度	最終年度
活動の指標	広報・情報発信活動の実施件数(シンポジウムや出前講座、現場視察等)	目標	-	10回	10回	H34年度
		実績	-	21回		10回
		達成率	-	210.0%		
		目標				H年度
	実績					
	達成率					

成果の指標(KPI)	指標の内容	実績		目標		
		年度	H28年度	H29年度	H30年度	最終年度
成果の指標(KPI)	都心部の従業者数(単位: 万人)	目標	39.0	39.1	39.1	H33年度
		実績	未確定	-		40.0
		達成率	-	-		
		目標				H年度
	実績					
	達成率					

事務事業マネジメントシート（平成29年度実施分）

事業名	香椎・臨海東地区住宅市街地総合整備事業	
所管課	まちづくり推進室	背景 事業を始めた理由(きっかけ)は何か アイランドシティを含む香椎・臨海東地区において、良好な住宅市街地形成を促進するため。
開始年度	平成15年度	
根拠法令	なし	
行政計画	第9次福岡市基本計画	

基本計画			施策成果指標 住んでいる住宅及び住環境に対する満足度 現状値：75.2%（2008年） 2013年：現状維持（80%程度を維持） 2022年：現状維持（80%程度を維持）
施策コード	主	8-2-1	
	再	3-3-1	
分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている		
施策	高度な都市機能が集積した活力創造拠点づくり		
事業群	アイランドシティのまちづくり		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	アイランドシティ(まちづくりエリア)
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	良質な共同住宅供給を促進することで、快適な居住環境を創出を図り、美しい市街地景観が形成された、先進的モデル都市を目指す。

実施内容(手段)	平成29年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	共同施設整備等補助
	・継続事業3件〔分譲690戸〕
	・新規事業2件〔分譲350戸〕

事業費(千円)			
平成29年度決算額(見込額)			
歳出合計	580,610		
歳入	特定財源	289,844	
	一般財源	290,766	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	H28	H30
歳入	歳出合計	555,892	1,322,576
	特定財源	277,380	660,649
	一般財源	278,512	661,927

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)		
	民間事業者が行う共同住宅整備に係る費用の一部に対して補助金を交付する。	良質な共同住宅供給の促進	快適な居住環境が創出され、美しい市街地景観が形成される。	住環境に対する満足度の向上		
	指標の内容	実績		目標		
	活動の指標	年度	H28年度	H29年度	H30年度	最終年度
		目標	2,661	2,853	3,136	H36年度
実績		2,661	2,853	6,292		
達成率		100.0%	100.0%			
目標				H年度		
実績						
達成率						
成果の指標(KPI)	指標の内容	実績		目標		
	年度	H28年度	H29年度	H30年度	最終年度	
	目標				H年度	
	実績					
	達成率					
目標				H年度		
実績						
達成率						

事務事業マネジメントシート（平成29年度実施分）

事業名	九州大学学術研究都市構想の推進	
所管課	九大移転調整課	背景
開始年度	平成13年度	
根拠法令	なし	
行政計画	九州大学学術研究都市構想(H13) ※産学官連携で策定	
		事業を始めた理由(きっかけ)は何か 九州大学の福岡市西区の元岡・桑原地区及び糸島市への移転を契機とし、九州大学を核とした新しい学術研究都市の形成を図るもの

基本計画			事業区分	重点
施策コード	主	8-2-2		アイランドシティ・九州大学学術研究都市・シーサイドもち(SRP地区)の従業者数(H21:13,127人→H28:21,200人→H34年度目標値:30,000人) ※うち九大学研都市分(H21:6,132人→H28:7,100人)
	再	7-6-1		
分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている			
施策	高度な都市機能が集積した活力創造拠点づくり			
事業群	九州大学学術研究都市構想の推進			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 九州大学伊都キャンパス周辺の地域
	対象をどのような状態にしたいのか 研究機関や商業施設の集積などまちづくりが進展し、九州大学伊都キャンパスを核とした学術研究都市が形成される。
事業目的	

実施内容(手段)	平成29年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか 九州大学学術研究都市推進機構(以下、OPACK)への補助
	<p><OPACKの事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学術研究に関する広報活動事業 ・産学官の共同研究による研究開発及びその支援に関する事業 ・研究機関等の立地支援事業 ・産学連携交流支援事業

事業費(千円)		
平成29年度決算額(見込額)		
歳出合計	17,008	
歳入	特定財源	0
	一般財源	17,008
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H28 H30
歳出合計	17,395	17,486
歳入	特定財源	0 0
	一般財源	17,395

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	<p>①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)</p> <p>OPACKへの補助金交付および九州大学学術研究都市構想の推進に関する連携 OPACKによる事業推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学術研究に関する広報活動 ・産学官の共同研究による研究開発及びその支援 ・研究機関等の立地支援 ・産学連携交流支援 	<p>②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)</p> <p>・地域への関心が高まり、産学官の共同研究や産学連携などが進む。</p>	<p>③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)</p> <p>・地域に研究機関や商業施設が立地し、まちづくりが進展する。</p>	<p>④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)</p> <p>・九大伊都キャンパス及びその周辺が、九州大学学術研究都市の核として、学生や研究者などが、新たな知を創造し、発信する、研究開発拠点として形成される。</p>																																																																																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H28年度</th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">学研都市への視察件数</td> <td>目標</td> <td>20</td> <td>24</td> <td rowspan="4">24</td> <td>H年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>24</td> <td>37</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>120.0%</td> <td>154.2%</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>H年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		H28年度	H29年度	H30年度	最終年度	学研都市への視察件数	目標	20	24	24	H年度	実績	24	37		達成率	120.0%	154.2%							目標				H年度		実績						達成率					<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H28年度</th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">九大伊都キャンパス周辺における従業者数</td> <td>目標</td> <td>7,100</td> <td>7,180</td> <td rowspan="4">7,260</td> <td>H34年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td colspan="2">集計中(経済センサス値)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>H年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		H28年度	H29年度	H30年度	最終年度	九大伊都キャンパス周辺における従業者数	目標	7,100	7,180	7,260	H34年度	実績	集計中(経済センサス値)			達成率									目標				H年度		実績						達成率				
	指標の内容			年度	実績		目標																																																																																							
		H28年度	H29年度		H30年度	最終年度																																																																																								
学研都市への視察件数	目標	20	24	24	H年度																																																																																									
	実績	24	37																																																																																											
	達成率	120.0%	154.2%																																																																																											
	目標				H年度																																																																																									
	実績																																																																																													
	達成率																																																																																													
指標の内容	年度	実績		目標																																																																																										
		H28年度	H29年度	H30年度	最終年度																																																																																									
九大伊都キャンパス周辺における従業者数	目標	7,100	7,180	7,260	H34年度																																																																																									
	実績	集計中(経済センサス値)																																																																																												
	達成率																																																																																													
	目標				H年度																																																																																									
	実績																																																																																													
	達成率																																																																																													
活動の指標																																																																																														
成果の指標(KPI)																																																																																														

事務事業マネジメントシート（平成29年度実施分）

事業名	移転に伴う西部地域のまちづくり	
所管課	九大移転調整課	背景
開始年度	平成5年度	
根拠法令	なし	
行政計画	九州大学学術研究都市構想(H13)※産学官連携で策定	
事業を始めた理由(きっかけ)は何か		九州大学の西区元岡・桑原地区及び糸島市への移転を契機とし、九州大学を核とした新しい学術研究都市の形成を図るもの

基本計画			事業区分	重点
施策コード	主	8-2-2	アイランドシティ・九州大学学術研究都市・シーサイドももち(SRP地区)の従業者数(H21:13,127人→H28:21,200人→H34年度目標値:30,000人) ※うち九大学研都市分(H21:6,132人→H28:7,100人)	
	再	7-6-1		
分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている			
施策	高度な都市機能が集積した活力創造拠点づくり			
事業群	九州大学学術研究都市構想の推進			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	九州大学伊都キャンパス周辺
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	・地域の学生住宅や生活利便施設、研究開発機能等が集積し、交通利便性が高まるなど、西部地域のまちづくりが進む。

実施内容(手段)	平成29年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	①大学直近(元岡・桑原周辺)の地元主体のまちづくり支援
	②九大学研都市駅から伊都キャンパスまでの交通アクセス強化に係る検討等
	③九大伊都キャンパス周辺インフラ整備(学園通線等)に係る調整

事業費(千円)		
平成29年度決算額(見込額)		
歳出合計	542	
歳入	特定財源	0
	一般財源	542
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H28 H30
歳出合計	4,127	1,200
歳入	特定財源	0 0
	一般財源	4,127 1,200

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)	
	・元岡、桑原地区の地元主体のまちづくり活動を支援する。 ・九大学研都市駅から伊都キャンパスまでの交通アクセス強化の検討を、交通事業者など関係者と行い、方向性を定める。 ・九大伊都キャンパス周辺のインフラ整備に係る調整を行う。	・地元主体のまちづくり活動により九大移転に応じた住宅供給等が行われる。 ・九大学研都市駅から伊都キャンパスまでの交通アクセスが強化され、地域の利便性が高まる。 ・九大伊都キャンパス周辺のインフラ整備が促進される。	・地域の学生住宅や生活利便施設、研究開発機能が集積し、交通利便性が高まるなど、西部地域のまちづくりが進み、人口が増加する。	・九大伊都キャンパス及びその周辺が、九州大学学術研究都市の核として、必要な居住・生活サポート機能や研究開発機能、産学連携機能が集積した拠点として形成される。	
	指標の内容	実績	目標	実績	目標
	元岡土地区画整理地内のまちづくり進捗率(地区内における学生住宅などの立地)	年度 H28年度 H29年度 H30年度 最終年度	年度 H28年度 H29年度 H30年度 最終年度	年度 H28年度 H29年度 H30年度 最終年度	年度 H28年度 H29年度 H30年度 最終年度
	目標 H年度	55% 58%	63%	1,170 1,460	1,840
実績	56% 61%		1,142 1,597		
達成率	101.8% 105.2%		97.6% 109.4%		
目標 H年度					
実績					
達成率					

事務事業マネジメントシート（平成29年度実施分）

事業名	福岡空港関連自動車専用道路の検討		
所管課	自動車専用道路担当	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成27年度		・福岡市都市交通基本計画(平成26年度)への位置付け
根拠法令	なし		・福岡市・福岡県・福岡北九州高速道路公社による合意(H27.3.17)
行政計画	福岡市都市交通基本計画(H26年度)		

基本計画			
施策コード	主	8-4-1	
	再	4-5-3	
分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている		
施策	成長を牽引する物流・人流のゲートウェイづくり		
事業群	空港機能の強化、利便性向上		

施策成果指標	～32n 道路の都市計画決定
--------	----------------

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	市民(自動車利用)
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	市南部地域や太宰府方面からの国内線ターミナルへのアクセス強化及び国道3号空港口交差点の混雑緩和

実施内容(手段)	平成29年度, 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	環境影響評価現地調査及び準備書(案)作成を実施。
	道路線形や概算工事費等を検討する概略設計を実施。(平成30年度継続実施)
	将来交通量推計を実施。

事業費(千円)			
平成29年度決算額(見込額)			
歳出合計	142,133		
歳入	特定財源	23,200	
	一般財源	118,933	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	H28	H30
歳出合計	46,704	33,210	
歳入	特定財源	13,000	7,484
	一般財源	33,704	25,726

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果, どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果, 対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果, 市としてどうなるのか)	
	・都市計画決定に向けた手続を進める。 ・福岡北九州高速道路公社が整備主体となる有料道路事業を基本とした事業化に向けて関係機関との協議を行う。(道路下水道局)	有料道路事業として都市高速道路の延伸事業に着手。(道路下水道局)	都市高速道路の空港方面への延伸により, 本市南部地域及び太宰府方面からの国内線ターミナルへのアクセスが強化される。また, 国道3号空港口交差点等の空港周辺道路の混雑が緩和される。	福岡空港の機能強化を生かし, 国内外との交流を促進して, 福岡市の競争力や魅力が高まり, 九州・西日本の更なる発展に繋がる。	
	指標の内容	実績	目標	実績	
	活動の指標	年度	H28年度	H29年度	H30年度
	目標				H 年度
	実績				
	達成率				
	目標				H 年度
	実績				
	達成率				